

ボッチャロボットや学生ボランティアなど 大学での研究・学びを パラスポーツ振興に活用

東京都立大学は、7つの学部を擁する総合大学。そのひとつである健康福祉学部は、看護師、理学療法士、作業療法士、放射線技師の養成を目的とした研究型の医療系教育機関。同大学では、健康福祉学部を中心に大学全体で、教育や地域連携の一環としてパラスポーツ振興に取り組んでいる。



東京都立大学



体験会・講習会



ボランティア



技術支援・
製品開発



施設貸出

企業情報

東京都立大学法人 東京都立大学

【担当部署】東京都立大学荒川キャンパス管理部

【所属人数】44名

【住所】東京都荒川区東尾久7-2-10

【電話】03-3819-1211

【URL】<https://www.hs.tmu.ac.jp/>



さまざまな切り口から パラスポーツ振興に貢献

教育機関である同大学がパラスポーツ振興の取組を始めたきっかけは、2017年のボッチャ体験教室だという。誰でもできることからボッチャが選ばれたが、その後、さまざまな種目が体験できるパラスポーツ体験教室や高齢者を対象としたユニバーサルスポーツ体験教室も実施した。



体験教室の様子

また、研究機関という側面を活かし、ボッチャボールの投球ができるマシン「ボッチャロボット」を制作。健常者も手足に障がいのある人もみんながロボットを介してボッチャを楽しんでほしいという想いから、現在も研究を進めている。



加藤係長

「ペガールボールのようなニュースポーツも障がいの有無にかかわらず楽しめるし、運動が苦手な方でも高齢の方でもプレーできます。「身体を動かすのはおもしろい」と思っていたくことを狙いとして、当大学では様々な

種目を体験教室に取り入れています。」

そう語るのは、荒川キャンパス管理部管理課 庶務係企画担当の加藤良治係長。

さらに、現役のパラアスリートのインタビュー動画を「都立大Channel」という動画配信アカウントで公開し、認知度の向上にも取り組んでいる。

「パラスポーツが普及しない理由のひとつに『どんな選手がいるか分からない』という声があります。ずっとトレーニングをしているわけではなく、私たちと同じような生活をしているところを見てもらうことで、親しみを持ってもらえれば。」(加藤係長)

できることから少しずつ。 “継続”することが重要

同大学には、初級障がい者スポーツ指導員の資格を取れる科目もあるそう。学生に体験教室やボッチャ大会の運営側としても参加してもらい、パラスポーツの素晴らしさだけでなく、運営の中で配慮することなどの気付きを通して意識の啓発に役立てている。

体験教室の運営を担当している同課 庶務係企画担当の鈴木直子氏も、「実際に見たり1回やってみたりすると面白さは伝わります。食わず嫌いならぬ「やらず嫌い」になるのではなく、興味があるものを選んで1度は体験してみしてほしいですね。」と語る。



鈴木氏

しかし、「単発的なイベントをしても『パラスポーツって楽しいんだな』で終わってしまいます。地道に少しずつでも続けていくことが大事だと思います。」と語るのは健康福祉学部 学部長の渡邊賢教授。

同大学の場合は、学生や教員だけでなく、地域の人た

ちに参加してもらうことで、大学だけでなく自治体を巻き込んで進めることができたことが良かったそう。「今後、パラスポーツ振興を検討している企業・団体も、できることから始めて、継続することを大切にしてほしい。」(渡邊教授)



渡邊教授

研究機関の強みを パラスポーツ振興に反映

同大学には、パラアスリートの身体測定をして、脊髄損傷した選手の体温調節機能に関する研究を行ってきた教職員が在籍している。荒川キャンパスの体育館は床冷暖房を備えるなど、低い位置の温度環境が反映されやすい障がい者の意向も反映している。

「今の研究対象はトップアスリートですが、今後は暑熱環境下における障がい者特有の影響の研究などにより、誰でも安全に安心してパラスポーツができる環境を整えられるよう、東京都や自治体とも連携して研究を進めていきたいです。」(渡邊教授)

今後の取組について

これまでに醸成されてきたパラスポーツに対する機運を引き続き維持し、少しでも多くの方々にパラスポーツの魅力を伝えることができるような活動に取り組んでいく。そのためには、大学の構成員だけではなく、自治体とも協力し、地域の人たちに参加してもらうことで大学内だけでなく地域の普及にも貢献していきたい。